



消防学校 ニュース



令和3年10月号

初任科 実科査閲

～訓練の成果を披露する晴れの舞台～

初任科第92期120人（うち女性14人）は、消防職員として必要な知識・技術を習得するため、寮生活を送りながら約6か月間（令和3年4月6日～令和3年9月24日）の厳しい教育訓練を受けてきました。その集大成として、訓練成果を確認・披露するため、9月14日（火）午後1時から各種訓練の査閲を実施しました。初任科生は、各消防本部消防長に対し、訓練成果として、しっかりと身についた技術、体力、気迫等のすべて余すことなく全力で披露しました。

天候不順の中、参列していただきました皆様、ありがとうございました。

[内容]

- 1 体力向上体操 13:00
- 2 開会 13:20
- 3 訓練 13:40
 - 訓練礼式
 - 機器取扱訓練
 - 消防活動訓練
 - 消防活動応用訓練
 - 救助訓練
 - 一斉放水
- 4 閉会 16:00



各消防本部（局）消防長



学校長訓示



加藤静岡県危機管理監代理挨拶



小長井静岡県消防長会会長挨拶



入場



体力向上体操



訓練禮式



機器取扱訓練



消防活動訓練



消防活動応用訓練



救助訓練





一斉放水



退場

(担当教官コメント)

初任科（第92期）の実科査閲は「見られている」なかで「見せる」を活動方針として示しました。各消防本部（局）消防長や来賓の方々に「見られている」なかで初任教育で学んだ基本訓練を当たり前に行うことと、どのように「見せる」のか、学生が主体となり訓練内容、役割分担、ナレーション等を考え企画してくれました。

新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、さまざまな行事等が中止となった中で唯一行うことができる実科査閲、学生達は当日まで考えながら積極的に意見を出し合い、本番に向けて訓練を実施している姿を見て、必ず成功させるという意気込みが伝わってきました。

査閲当日は雨も降りましたが、学生達はこのような状況に負けないほどの完成度の高い訓練を披露してくれました。

今年度の実科査閲は、保護者の参観は中止とさせていただき、後日動画配信といたしました。観覧したすべての方々に学生達の成長した姿を御覧いただき、初任教育訓練の集大成として見事な成果を挙げる事ができたと思います。

教務課主査 中村 一二三（静岡市消防局から派遣）

初任科修了式

～消防学校からの旅立ち～

新型コロナウイルス感染拡大による行動制限の中、全力で、気迫を持って、教育訓練に取り組んできた初任科第92期の学生も、いよいよ修了となり、9月24日(金)に修了式を行いました。入校生全員が無事修了することとなり、今後の現場での活躍を期待します。

修了式次第

開式の辞

国旗に対する敬礼

国歌演奏

消防殉職者に対する黙祷

修了証書授与

表彰

学校長式辞

静岡県危機管理監祝辞

静岡県消防長会会長祝辞

修了生代表答辞

閉式の辞





太田学校長から修了生代表へ修了証書授



表彰（加藤静岡県危機管理監代理から静岡県危機管理監賞授与）



表彰（小長井静岡県消防長会会長から静岡県消防長会会長賞授与）



表彰（太田学校長から静岡県消防学校長賞授与）

表彰一覧

種 類	氏 名	所 属
静岡県危機管理監賞	石川 京志郎	浜松市消防局
静岡県消防長会会長賞	平岩 玄	静岡市消防局
静岡県消防学校長賞	原田 航聖	御前崎市消防本部
	桑山 寛隆	浜松市消防局
	浅岡 海実	静岡市消防局
精励賞	菊地 直央	下田消防本部
	稲田 智史	浜松市消防局
	杉本 誠太	湖西市消防本部
	片岡 暁彦	磐田市消防本部
	山本 陸空	静岡市消防局
	古屋 智春	富士山南東消防本部
努力賞	栗田 航希	静岡市消防局
	浅野 棕哉	富士山南東消防本部
体力賞	野極 友太朗	駿東伊豆消防本部
功労賞	内藤 来	静岡市消防局

修了生代表答辞

朝夕と過ごしやすい涼しさとなり、秋の訪れを感じる季節となりました。本日は私達初任科第92期修了生120名のために、このような盛大な式典を挙げていただき誠にありがとうございます。また、御多忙の中、御臨席くださいました御来賓の皆様に修了生一同心から感謝申し上げます。

～ 中略 ～

さて、入校当初は終わりを待ち遠しく思ってしまうほど苦しかった初任科生活も本日修了を迎えました。何度も逃げ出したい感情に駆られながらも最後まで諦めずに今日までやって来れたのは、苦しい時こそ励まし合い同じ思いをしながらも声を掛けてくれた仲間がいたからです。一人では成し得ないことも仲間がいたからこそ乗り越えることが出来ました。いつの間にか私達の間には深い絆が生まれ、互いに信頼し合えるようになりました。この消防学校で出会い、互いに切磋琢磨し、共に汗を流した仲間は私のかげがえのない存在です。これから幾度となく壁が立ち塞がるうとも、この120人全員で助け合い誰一人として欠けることなく消防人生を歩んでいきます。

私達120名が今、この日を迎える事が出来たのは、学校長をはじめとする教官、職員、私達をここまで育ててくれた家族のおかげであります。また、この静岡県消防学校で出会い、消防士になるという同じ志を持った初任科第92期の仲間のおかげでもあります。今後所属へ戻り、消防士としてそれぞれの道を歩み始めますが、私達が「風の時代」の土台となれるよう、「土の時代」を重んじながらも日々進化していきます。そして国民が私達消防士に寄せる大きな期待に応えるため尽力していきます。

最後になりましたが、学校長をはじめ、教官、職員の皆様の益々の御健勝と御多幸をお祈りすると共に、静岡県消防学校の更なる御発展を祈念しまして、答辞とさせていただきます。



※ 一部分の抜粋です。

令和3年9月24日

初任科（第92期）修了生代表

静岡市消防局 内藤 来（総代）



初任科第92期生と教官 おつかれ！



さあ、新たなスタートだ！

チーフ教官から

初任科第 92 期修了生たちへ

初任科第 92 期をスタートするにあたり、私は「あたりまえ力」と「人間力」がある消防人になってもらいたいと考えていました。そんな思いを込めて、初任科第 92 期のスローガンは「風の時代」としました。

社会は「土の時代」から「風の時代」へ変化していくといわれています。

「土」・・・基本・規律・常識・伝統・努力・組織・上下関係などの「あたりまえ力」

「風」・・・情報・知識・個性・創造・つながり・コミュニケーションなどの「人間力」

ただ、消防人にとって「土」は欠かせません。「土」をしっかりと学び、重んじ、さまざまな変化に対応できるよう、これからの時代に沿った「風」を取り入れていき、「風の時代」の消防人として、日々進化してもらいたいという意味でこのスローガンを掲げました。

教育日数 114 日、教育時間数 801 時間のカリキュラムの予定が、新型コロナ感染に伴い 2 日間は臨時休校となり、教育日数 112 日、教育時間数 787 時間で修了しました。また、新型コロナ感染拡大の影響を受け、さまざまな行事等が中止となり、思うような教育訓練ができなかったことはチーフ教官として大変申し訳ない気持ちでいっぱいです。

この 6 か月間、新型コロナ感染対策や外出の自粛等、制約ばかりかけさせてもらいましたが、4 月 6 日に入校した 120 名の入校生が、誰一人欠けることもなく 120 名の修了生として旅立っていくことが出来たのは全員が社会人、公務員、消防人としての「あたりまえ力」と「人間力」を意識し、さまざまな変化に対応してくれた結果だと思っています。修了宣言を伝えた時、初任科第 92 期のチーフ教官をやって本当に良かったと思いました。皆さんには大変感謝しています。ありがとう！

おわりに、静岡県内各消防本部（局）から預かった 120 人の種は、約 6 か月間、消防学校という「土」の中で各教官方から水や光を与えられ、ようやく芽が出ました。その苗を各消防本部（局）へお返ししました。これからは自分自身、それぞれの場所で花を咲かせて下さい。「置かれたところで花は咲く」、はじめは希望の業務に就けないかもしれませんが、そこで花を咲かせば、種ができ、やがて希望の業務へ「風」が運んでくれるでしょう。そうでなければ、自分で「風」を吹かせて運べばいいと思います。

「土」から「風」へ、修了生たちの活躍を期待します。

初任科第 92 期チーフ教官

中村 一二三（静岡市消防局から派遣）



修了宣言

置かれたところで
花は咲く

太田校長のちょっといい話



今月4日から救助科が、18日から初級幹部科も入校し、学校もまた忙しくなってきました。さて、今回は、ちょっとカッコいい名言を2つ。

「指をさして人を批難する前に、君のその手が汚れていないか確かめてくれ。」レゲエの神様ボブ・マリーの言葉です。言葉の背景には、ボブ・マリーの生い立ち(白人で61歳の父親とジャマイカ人で16歳の母親の間に生まれ、生後すぐに両親が離婚)や当時のジャマイカ人をはじめとする有色人種に対する差別があるのだと思いますが、それ抜きでも彼の音楽を聞いてからこの言葉を思い出すと心に刺さります。

コンプライアンスが重視される現在、公務員である我々は特に注意を払う必要があり、県では毎年10月を強化月間とし、研修やケーススタディーを実施していますが、なんとなく研修を受けるようになってしまっている自分がいます。しかし、自分が尊敬する人や好きなミュージシャンの言葉だと、頭よりハートに直接訴えかけられているような気がします。

学校でも、公務員倫理については、初任科だけでなく、現任の各科においてもほぼ必修となっていますので、この言葉以外にも学生各人の心に留置くことが出来るような言葉を探して行きたいと思います。

すでに、初任科は修了式を終えて各所属に配属されていますが、実科査閲に向け、同じ訓練を何回も繰り返し練習している姿を見て、頭に浮かんだのが「私は、一万種の蹴りを一度だけ練習した男は怖くないが、一つの蹴りを一万回練習した男は恐ろしい。」というブルース・リーの言葉でした。

自分も中学生のとき、「燃えよドラゴン」を映画館で見た後におもちゃのヌンチャクを買い「アチャ」と真似をしていましたが、皆さんの中にも同じことをした方がいるのではないのでしょうか。

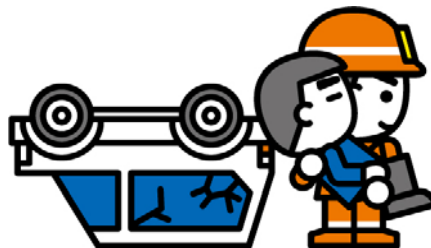
消防職員は、現場での対応力を高めるために、基本動作を繰り返し行うことにより、頭で考えるよりも体が先に動くようにすることが求められます。初任科生だけでなく、現在入校中の救助科の学生たちも、迅速、的確な人命救助を行えるよう、日々基本動作の積み重ねによる訓練に励んでいます。

名言、格言には、努力の大切さについてのものが多数ありますが、カッコいいという基準であれば、自分はこの二つが双璧だと思います。(多分、本の中での知っている人ではなく、音楽や映画を通じて何回も聴いたり、見たりしているので、親近感というか思い入れが強いからだと思いますが。)

そんなお前は、どれだけ努力しているのかと言われてしまうと身も蓋もないですが、それでも、こういう言葉を時々思い出すことで、心が挫けそうな時でも「もう少しがんばろう」と前向きに考える手助けにはなっていると思います。



ソーシャルディスタンス



編集・発行/ 静岡県消防学校 〒424-0211 静岡市清水区谷津町 1-577-1
☎ 054-369-1190 FAX: 054-369-1197

★「消防学校ニュース」は静岡県ホームページの消防学校の案内・紹介のところに掲載しています。過去の分を含め、どうぞ御覧ください。

静岡県消防学校

検索

